

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【園芸作物、関東農政局】

千葉県 丸朝園芸農業協同組合（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R8）

- 既存のにんじん選果施設について、高性能選果機の導入等により、パート作業員を削減しつつ、1日当たりの処理能力の増加を図る。
- 内部設備の増強により受け入れ体制が整い、より多くの生産が可能となるため、大規模農家の栽培面積を増やし、耕作放棄地の発生防止につなげる。併せて、輸出により販路の拡大を図る。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 平成9～10年度に整備した集出荷施設であるが、**にんじんの取扱量が増加**しているため、ストレージラックを含めた機能向上により平成24年度に再整備した施設である。
- 現在**にんじん洗浄選果機の1日当たりの処理量が飽和状態**のため、農家の出荷量を制限している状況であり、**出荷の遅れによる秀品率の低下や後作の作付の遅れが問題**となっている。また、施設の**パート作業員が高齢化し、人員確保が困難**になっている。

【再編集約等（合理化）の内容】

- 既存施設に**AI選果機、デパレタイザーを導入し、1日当たりの処理量を75t/日→120t/日に増強**
- 品質保持に必要となる**洗浄水除菌システムを新たに導入**

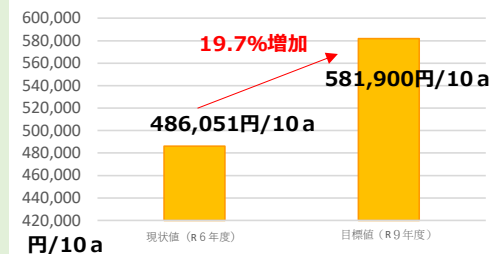


新たなにんじん洗浄選果ラインを整備→
（写真は既存施設）

再編集約・合理化等で期待される効果

- 1日当たりの出荷量が増えるため、**出荷遅れが防止でき、適期収穫による反収の増加により拡大意欲が向上**することで、**大規模農家の栽培面積を増やし、耕作放棄地の発生防止につながる**。また、パート作業員を削減し、**施設運営が安定する**。
- 生産力の強化、洗浄水除菌システムによる品質保持の効果により、引き合いのある**台湾の輸入商社への段階的な輸出量の増加が見込める**。

成果目標【単位面積当たりの販売額（円/10a）】



他産地へのメッセージ

- 事業計画作成について、**産地で何が問題なのか、その解決策は何であるのか、成果・効果について定量的に判断できるものか、政策に合致しているもの**のかを明確にすることが重要であり、**関係者が一丸となって事業に取り組む必要がある**。